

# アトリエ 琉游舎 だより 169号

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)

2024年1月3日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>



# 謹賀新年



★今年もみんなで作る琉游舎をよろしくお願ひいたします

★定例会は読書会 映画会 写経会をやっていきます

★皆さんのこんなことしたい あんなことやりたいがあったら お知らせください

是非一緒にやってみましょう

●写経会は毎月第一日曜日に行います。(1月は2週目です) 初めの方にも写経に必要な道具一式ご用意しています。手ぶらでお越し下さい。手本をなぞる方法、経文を隣に置いて白紙で写経する方法など、お好みの方法で写経して下さい。文字に一心に向かい合っていると1時間という時間はあっという間です。

●読書会は法華経、歎異抄、般若心経、ダンマパダ、立正安国論、阿弥陀経と読んできました。現在は法華経を再び読んでいます。前回読んだところを再度復習をしながら毎回進んでいきます。ゆっくり読みながら雑談会です。テキスト・資料をご用意してお待ちしています。

●映画会は昔の名画を上演しています。面白いです。懐かしいです。現在はジョン・ウエインの西部劇、ヒッチコック映画、昔のハリウッド映画の名作を交互に上映しています。かつてのスターの姿をお楽しみください。

## 1月・2月スケジュール

			木	金	土	日
			4 映画会 お休み	5	6	7 写経会 13時半から
8	9 読書会 13時半から	10	11 映画会 お休み	12	13	14
15	16	17	18 映画会 13時半から	19	20	21
22	23 読書会 13時半から	24	25 映画会 13時半から	26	27	28
29	30	31	2月1日 映画会 お休み	2	3	4 写経会 13時半から

### 読書会

1月9日  
1月23日  
(火) 13時半

### 写経会

1月7日  
2月4日  
(日) 13時半

### 映画会

1月18・25日  
(木) 13時半

新聞の購読を十月でやめました。新聞に限らずテレビでも、報道された言葉はすべて同じような言葉にしか聞こえないためです。メディア独自の言葉、つまり独自の取材や視点で伝えられた言葉でなく、取材対象者が発した言葉をただ私たちに垂れ流しているだけの報道は、ネットのまとめニュースを見れば、事は足りません。視聴者が聞きたいことを聞き出して私たちに伝えるのではなく、情報発信者が伝えたいことをそのまま伝えるのであればそれはジャーナリズムではなく、情報の代理人です。記者クラブに集った仲間内が記者会見で語られる空疎で具体性のない言葉をそのまま伝え、申し訳程度のおざなりの質問には「適切に対処します」「遺憾です」「総合的に判断します」「この場で答える立場にないので差し控えます」の回答で良しとしているのです。では、「どのような時期に具体的にどう対処するのか」や「残念な感想ですね。遺憾の感想をどう政策に具体化するのか」との踏み込んだ質問もなく、仲良しクラブのおしゃべりにしか聞こえないのは言葉に対する覚悟と信頼が発信者伝達者双方に希薄になってきてしまったからではないでしょうか。

公共放送を自負するNHKニュースは以前には、民放と内容も語り口も一線を画していたように記憶しています。大谷選手の移籍や嵐の解散が大衆の関心事であることは否定しませんが、それがトップニュースに来る判断が私には理解できません。大衆をターゲットとするポピュリズム放送ではなく公共の利益のための放送であることが存在意義なのであれば、ウクライナやイスラエルの戦争、派閥のキックバックの問題を真っ先に伝えることの方が遙かに私たち国民の共通利益になると思われまふ。またNHKが大衆放送局ではなく公共放送局であるならば最近よく耳にする耳障りな言葉も頂けません。ニュースは男女のアナウンサーの掛け合いで進行することが最近の傾向です。そのやりとりの中で片方の説明や映像にもう一方が「へえーっ」という相づちを打つことがしばしばです。通常は「はい、ええ、そうですね、なるほど」くらいまでが理解や賛意を示す相づちの言葉だと思のですが「へえーっ」まで行くと仲間内のおしゃべりになら通用しますが、公共の場の発言としてはテレビに限らず、聞き苦しい言葉です。また、アナウンサーが漢字の読みを間違えたときに、もう一方が誤りを正すと「あそっかー」と言葉を返したことにも驚きました。これを聞いて私たちは彼らが発する言葉を信ずることができるのでしょうか。言葉は今死に向かう病に冒されているようです。

経文は信じる人にとっては聖典ですが、信じることのできない人には荒唐無稽の作り話に見えるでしょう。理性的に解釈しようと試みても矛盾だらけの記述に、論理整合性を見ることは不可能です。経文は解釈して知識として読むものではなく、心と身で受け取り私の中にそのいのち（教え）を頂くものです。心身に頂きたいのちが日々の生活の安らぎを私たちに与えてくれるのです。その安らぎが信じるということ。日々を安らぎ（信）と共に生きる（行）ことが、「信行一致」です。経文は信行一致の日々があるからこそ信じることができるのです。仏の智慧（教え）を衆生の知識で理解することは不可能です。仏の智慧は不思議（思議すべからざるもの）だからです。しかしお釈迦様が得た仏の智慧を私たち衆生はなんとかして手に入れたい、またお釈迦様はなんとかして衆生に与えたい、その願いが言葉になったものが経文です。その経文は仏の不可思議の智慧の集大成を言葉（衆生の知識）に翻訳したものです。ですからこれを知識で読んではなりません。「信」と「行」で読まなければなりません。その時初めて、仏の智慧（いのち）は私たち一人一人のいのちと同体同心となることができるのです。私たちは「信」によってのみでしか仏の智慧を手に入れることができません。そして「行」の裏付けがあってこそ「信」は確固としたものとなるのです。

日蓮聖人の書かれた「四信五品抄」に「以信代慧（信を以て慧に代う）」の言葉があります。仏が仏の智慧によって覚知した教えを、私自身の智慧によって覚知する代わりに、仏が説いた教えを信じ行ずることによって、仏が智慧で得るのと同じ功德を得ることができるということです。仏教は「慧（智慧）」の宗教です。お釈迦様が覚知したその「慧」を私たち衆生は「信」によって得ることができるということ。「慧」はお釈迦様が一人一人の「信」と「行」を鑑みて各々に与えてくださった「慧」です。画一的な「慧」ではなく、一人一人に与えられた固有の「慧」です。仏教はひとりひとりの「信行」を通してお釈迦様の「慧」を頂く宗教なのです。そして私たちとお釈迦様を繋ぐ唯一の導線が経文の言葉を受持することです。お釈迦様の言葉（経文）を信じることができなければ信仰は成立しません。言葉が「行」にならなければ、「信」を得ることができません。お釈迦様の「慧（言葉）」を「行」として実践することで「信」を自らのものとし、お釈迦様の「慧」を身に纏う喜びを受持することができます。それが私たちが仏弟子であるということです。

言葉が実践に移されなければ、その言葉はいつまで経っても行き場が定まらず虚空を彷徨うばかりです。言葉が一人一人の身体に届かなければ、私たちの世界は安住の場を奪われた言葉の墓場と化してしまうでしょう。新約聖書「ヨハネによる福音書」に「はじめにロゴスありき」とあります。創世は神の言葉（ロゴス）からはじまった。言葉はすなわち神であり、この世界の根源として神が存在する。という意味に解されているようです。ロゴスを神の言葉であるとし、その神を絶対神と規定することの是非を仏教徒の私はひとまず置くとしても、これは本質的に「はじめに仏の智慧（言葉）ありき」と同じ事だと考えられます。私たち仏教徒はその言葉（慧）がお釈迦様の得た仏の智慧、つまり「世界はありのままにある（空）」という縁起の法則を示しているのだということに同意できるでしょう。私たちの他者とのコンタクトはまず言葉を通して始まるはず。年初に狂言綺語に綴られる言葉についても改めて「信行一致」の言葉たり得るかということ深く考えていかなければならないと思った次第です。あけましておめでとうございます。